

水たま

通巻 第25号



あじさいまつり〔6月16日〕

ご挨拶

宮司 竹間 宗麿

福岡県南、久留米地方に初夏を告げる高良山恒例の川渡祭六月一、二日、別称（へこかきまつり）が行われる季節となりました。

今年は、慶賀の年であります。この秋に日本の総氏神である「お伊勢さま」の第六十二回の式年遷宮（二十年に一度）が伝統的古式に則り斎行されます。また、去る五月には出雲大社でも六十年毎の大遷宮が斎行されました。まさに古代の姿をいまに伝えるものであります。

これは、国家悠久の歴史、伝統文化の開花であり、日本文明の顕現にほかなりません。国民挙ってお祝い申しあげるものであります。

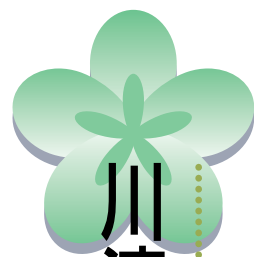
さて高良大社では、昨年集中豪雨で災害に見舞われながらもご鎮座一六二〇年にあたり「神幸祭」が賑々しく斎行されました。次回は五年後を期すということになっております。

また山麓には九州高速道久留米ICへ結ぶ縦断道路が敷設され、完成間近であります。そして特に、四十年ぶりとなる国の重文「高良大社ご本殿」の御屋根替えが近づき所管庁の許可を得て着手したいと考えております。

このように高良山周辺の環境変化、時代の変動期に思いを馳せながらも、この式年遷宮の慶事に倣い、奉祝記念となる高良山再生（よみがえり）の事業を計画して参りたいと考えております。

皆様のご教導ご支援を賜りたいと存じております。

最後に梅雨の折柄御身自愛の上、皆様の御健勝と平穏を一念にお祈り申し上げご挨拶いたします。



川渡祭(へこかき祭り)

〔六月一日・二日〕

川渡祭にお参りすると昔から高良大神様の御神護を普段に増して授かると伝えられます。茅の輪をくぐり、御祈祷を受け、更なる幸福の縁に結ばれますよう御案内申し上げます。

茅の輪くぐり神事

六月一日・二日の両日、午前七時・十一時・十四時にお祓いを受け、神職と共に茅の輪をくぐり、心身を抜い清めて、無病息災を祈ります。茅の輪は一日の午前七時のくぐり初めより終日、ご自由にくぐる事ができます。



茅の輪くぐり

川渡祭特別祈願

六月中受付
川渡祭には還暦・厄年は元より家内安全・諸願成就の祈願を受付けております。

赤い肌物を身に付けて、昇殿いただき御祈祷を奉仕、特別祈祷札を授与致します。
祈願初穂料 五千元以上

川渡祭特別授与品

六月中授与



- 茅の輪守 (上)
- へこかき守 (下)

夏越大祓のご案内

大祓式 〔六月三十日 午後三時〕

平安時代からのわが国の伝統である大祓を受けて、家族そろって無病息災、暑い夏を乗り越えましょう。

どなたでも参列できます。

● 初穂料
一家族一、〇〇〇円以上ご自由です

※三千元以上には「大祓茅の輪守り」授与



大祓式

お正月の初詣は厄年などに関わらず毎年行うように、大祓も毎回受けましょう。

大祓とは…知らず識らずのうちに犯したであろう罪やあやまち、心身のけがれを祓い清めるための神事です。毎年六月と十二月の二回、その月の末日に行います(夏越と年越)。平安時代初期の国家の法制書『延喜式』にも記されており、古くから行われていたことがわかります。ひな祭りの原形とされ、自分の罪けがれを移した「人形(形代)」を神事によってお祓いし、我が身の代わりにお清め致します。当社においても伝統に則り大祓式を厳修致しております。



罪けがれを祓う

祭事のご案内〔六月～十月〕



◆川渡祭（へこかき祭） 六月一日～

詳しくは二ページを参照下さい

◆夏越大祓式 六月三十日

日々生活している中、知らず識らず犯した罪穢れを、人形に移し、心身を払い清める神事。また、暑い夏を無病息災に過ごせるようにとの祈りも込めます。

高良大社 午後三時より
大学稲荷神社 午後四時より

◆奉納書道展 七月二十日～

筑後地区の小中高校・一般の方から毎年千点近くの作品が展覧されます。審査後は、上位五百点ほどを本殿、展望所に特別展示致します。表彰式当日は、奉納奉告祭を行い出品者の書道上達、身体健康を祈念致します

◆愛宕神社夏祭 七月二十三日

愛宕神社は、火除けの神として広く信仰されており、当日は氏子崇敬者参列の上、火除けの祈願祭を致します。

◆献灯祭 八月一日

社殿前の一三一段の石段両側の灯籠に灯りをともし点灯式。

点灯期間八月末まで（午後七時～十一時）



◆味水御井神社夏祭 八月七日

味水御井神社は、水の神として信仰されており、当日は、氏子崇敬者参列の上、地域の安全・隆昌を祈念致します。また、境内にある泉は、六月一日の川渡祭の禊の地になります。

◆大学稲荷神社夏祭 九月六日

多くの崇敬者参列の上、各位の無病息災を祈念致します。

◆剣道大会 九月二十三日

久留米市内の、小・中・高校より剣士が参加、境内特設会場にて心と技を競い交流を深めます。

◆市恵比寿社例祭 九月二十五日

石造りの夫婦恵比寿をご神体としてお祀りする社です。商売繁盛・家内安全・夫婦円満を祈願致します

◆例大祭 十月九日

高良大社で一番大きなお祭。「高良山くんち」と言われ親しまれています。神賑行事として地域の伝統芸能等多数が奉納されます。

◆崇敬会大祭 十月十日

高良大社崇敬会会員が日々の神恩に感謝し、家内安全・商売繁盛等祈念致す大祭です。

◆観月祭 十月十一日

「月神高良の神」に因み、月を愛でる祭として今年二十三回目を迎えます。箏曲や太鼓、舞等奉納され、境内は雅な雰囲気になります。参観者の心を和ませます。



◆弓道大会 十月十四日

境内に設けられた会場で、筑後地区内外より多くの方が弓の技を競います。また、古式ゆかしい「百々手式」の奉納があります。



百々手式
(小笠原流弓馬術同門会)

◆稲荷教秋季大祭 十月十六日

大学稲荷神社稲荷教会員、崇敬者が日々の神恩に感謝し、家内安全・商売繁盛等祈念致します。

◆山川招魂社秋季大祭 十月二十日

山川招魂社は、現代日本の基礎を作り上げた英霊をお祀りする社です。当日は英霊に対し参列者各位が、感謝の真心を捧げます。

祭事の報告（二月～四月）



■歳旦祭・初詣 一月一日

午前零時に新年を告げる太鼓が鳴り響き、多くの参拝者が神前に詰めかけました。冷え込みの厳しい正月でしたが天候に恵まれ大勢の方に参拝戴きました。



正月社頭風景

■玉替祭 一月十四日

御祭神の御神徳の表れといわれる木製の「宝珠みくじ」授与では、各地の崇敬者の篤志もいただき、多くの参拝者で賑わいました。



玉替祭社頭風景

■鏡開祭 一月二十一日

正月神前に供えた善男善女が割り、ぜんざいとして参拝者にふるまいました。

■大学稻荷神社初午祭 二月九日

大学稻荷神社の一年で一番大きな祭です。当日は多くの参拝者を迎え、この年の運勢を表す粥占の凶吉報告が発表されました。

■子の日の松神事 二月十日

久留米市本山に鎮まります本山天満宮より、地元上津四地区内の大人、子供達により古式ゆかしい装束姿にて松苗が運ばれ、境内に植樹されました。



子の日の松植樹風景

■紀元祭 二月十一日

建国をしのぶ祝詞を奏上した後、巫女による「浦安の舞」を奉納し、皇室の弥栄、国家の繁栄、国民の安泰を祈念しました。

■祈年祭 二月十七日

古代より農耕と共に歩んできた日本人にとって五穀豊穡を祈る重要なお祭りです。農業はもとより、諸産業の生成発展をも併せ、参列者は実り多き年となるよう祈りました。

■琴平神社春季大祭 四月十日

琴平神社の鎮座する吉見嶽は桜の名勝で、今年は開花が早く、新緑の中、大祭が斎行され、参列者が和やかに清々しい一時を過ごしました。



吉見嶽より展望（折からの春霞）

■昭和祭 四月二十九日

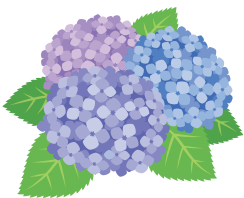
昭和天皇の御聖徳を仰ぎ、我が国の繁栄を祈念しました。併せて江戸千家久留米不白会によります献茶式が奉納され、境内にて、参拝者に薄茶の接待が行われました。境内に在ります久留米ツツジ原木群は満開でした。



江戸千家久留米不白会薄茶席

■山川招魂社春季大祭 四月三十日

高良山の麓、茶白山の山川招魂社にて春季大祭が斎行されました。参列者各々が英霊に対し感謝の心を捧げました。





高良山の信仰(五)

修験道

昔より山には神々が宿ると信じられ、畏敬の念を抱いてまいりました。

春になると山の神が里に降りてこられ、田の神となり農作業を守護し、収穫が終わるとそれを見届け再び山へとお帰りになられる。との信仰もあります。

また御霊は山へ登るとの信仰もあります。

山は神々や祖霊の居ますところとして日本人は考えてまいりました。

やがて仏教が日本へ伝来しますと今までの山への信仰と融和して更に儒教、道教、陰陽道とも融合します。それが日本独自の神仏習合の修験道へと繋がります。修験道とは簡単に申せば、山に入り野に伏して修行し、山の持つ不思議な力を身につける。修行し清らかな本心を発揮する。ということでしょうか。

修験道においてはその開祖を役行者神変大菩薩を仰いでまいりました。行者は大和国茅原の里奈良(奈良御所市)に御誕生、十七歳で近くの葛城の峰に修行、大峯山へ

入峯し大峯山上ヶ岳にて座王大権現が示現なされ大峯山寺の本尊として祀られました。日本各地の山へ入峯し、九州へは背振、英彦山に続き我が高良山へも登られたと『役行者本記』に記されております。

又、高良山の初代座主隆慶上人は奈良大安寺での修行後九州への帰路、葛城の峰にて役行者にお会いしたと伝えていいます。

さて高良山についての修験道は、山麓に千住院極楽寺がありこの寺が修験寺院として地域の修験者(山伏)達の指導していきました。明治五年の九月の修験道禁止令により廃寺となりました。そのおり境内にあった役行者の石像が高良下宮社に移されましたが、顔面は削り取られ無残なお姿として現在も祀られています。



役行者像



天狗 太郎坊像

又、山内の愛宕神社には明治初年神仏判然令まで 本殿内に愛宕山將軍地藏菩薩が祀られていました。このお地藏さんは一般に眼にする僧形の柔和なお姿と違い鎧甲冑を身につけ馬に乗られたお姿で、その脇士として役行者

像も祀られていました。更に愛宕神社境内の石の神馬像の所には愛宕山栄術太郎坊という天狗の石像がありました。天狗は平安時代の文献にも出てきて当初鳥獣の姿でありましたが、江戸時代後期にもなると鼻高の修験者風の姿となり、各地の霊山には天狗が居て修行を重ねており、魔物として畏れられると同時に火難盗難災難除けの信仰の対象になりました。さて太郎坊は天狗の中でも横綱、天狗界の代表的であり、愛宕山大権現の使者として又は名代として火難消除の霊験あらたかな天狗さんでしたが、現在石像は山麓の御井寺の門前に移されて信仰されています。又、高良山には筑後坊という天狗もいましたが

詳細は不明ながら昭和の天狗番付表には年寄として名があります。添田町の英彦山は九州の修験の元締めとして繁栄しました。昔は英彦山から修験者が高良山麓にも来て加持祈禱を行ったようです。

現在でも民家の玄関先に英彦山ガラガラ(土鈴)を目にするのが出来、修験の信仰の一端を垣間見ることが出来ます。

修験道は修行の厳しさと共に神様・仏様・ご先祖様を同時に信仰する日本人らしい分け隔ての無いおらかな信仰として、親しまれてきました。が明治を境に廃れて、高良山では山伏の姿も見ることが出来なくなりました。

ところが近年各地の霊山では、修験道が見直され、社寺主催の修行に一般参加者の修行申込や問い合わせが増加し注目されていくそうです。一歩間違えば死との隣り合わせな危険な山へ、あえて自ら門を叩き、大自然に身を置くことにより何かを得よう、何かを感じ取りたいという方々が増えているとの事です。皆様方も筑後の霊山高良山へ足を運びませんか？

修行と堅苦しくならなくても登山を重ねる事により、何かを得ることが出来るかもしれません。

高良大社崇敬会だより

高良大社崇敬会 平成二十五年度総会開催される

去る三月五日(火)ホテルマリタワー創世に於いて、平成二十五年度の高良大社崇敬会総会が盛會裡に開催されました。当日は約百名の会員が出席し、井手和英会長を議長に選出の上、慎重なる審議を結果、原案はすべて承認されました。

総会では来賓を代表して、高良大社竹間宗麿宮司に祝辞を戴き、無事に終了しました。

続いて記念講演は、久留米大学名誉教授 猪口哲夫先生による『歴史道遙 明治維新における「廃仏毀釈」をめぐる』と題した講演でした。高良大社も明治維新の流れのままに、当時の時代背景をも



井手和英 崇敬会会長 挨拶

とに判り易く御講演を賜り、一同熱心に聞き入っております。

次に懇親会が催され、終始和やかな雰囲気の中で総会は進行し、お互い見知らぬ会員も、親睦を深め、無事終了いたしました。

高良大社崇敬会はどなたでも自由に入会いただけます。詳しくは高良大社公式ホームページに記載されておりますので、御近所御誘い合わせの上、是非とも入会されますよう心よりお待ちしております。



猪口哲夫 先生 講演

第三回 企画研修旅行盛大に実施される

五月八日(水)に高良大社崇敬会主催の第三回企画研修旅行が実施されました。この企画研修旅行は毎年実施されており、三回目の今回は、約六十名の参加を得て、山口県住吉神社を正式参拝し、その後カモンワーフ・唐戸市場・門司港レトロ散策などを堪能して、充実した一日を満喫しました。

来年度の企画研修旅行は、三年に一度の伊勢参宮旅行を計画中で、間も無く齋行される遷御(神様のお引越)後の新旧の御正宮をお参りさせて戴く予定です。

高良大社崇敬会の平成二十五年度の事業計画について

前述の高良大社崇敬会平成二十五年度総会に於いて承認されました今年度(一月一日から十二月三十一日)の事業計画は次の通りです。

《総務委員会案件》

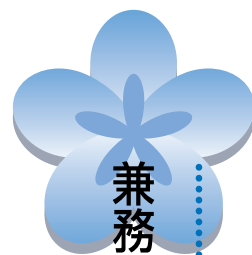
- ① 役員会、総会の開催
 - ② 新規会員入会勧奨・増強
 - ③ 高良山古代史講座の継続開催
 - ④ 『社報』たまたれを送付
 - ⑤ 崇敬会大祭の齋行
- ・崇敬会大祭は毎年おくんちの時(十月十日)に齋行されております。

《事業委員会案件》

- ① 祭事等看板の作製
 - ② 高良山マップの作成
 - ③ 第三回企画研修旅行への助成
 - ④ 高良山書道展写真展への協賛
 - ⑤ 旧宮司邸周辺の参道整備
- ・右記の五つを計画しております。特に⑤参道整備につきましては、本来ならば昨年度に実施する予定でしたが、昨年七月の筑後地方を襲った豪雨の為、今年度に移行することが承認されました。
- 会員の皆様方の物心両面にわたる御協賛により、計画・実施させて戴くものであります。



長門國一の宮 住吉神社正式参拝



兼務社紹介 富松神社

とみ まつ じん じゃ

御祭神 筑紫弦田物部祖天津赤星命
(くさのつるたものへのみおやあまつあかほしのみこと)

久留米市高良内町九七九 鎮座

大変の長いお名前の神様で『古事記』『日本書紀』には記されずこの地方では当社と同じ高良内町の赤星神社でしか祀られていない神様です。いつの創建かはつきりしません。江戸時代にはすでに鎮座なさっています。

『先代旧事本記』によると物部氏の祖神饒速日命(にぎはやひのみこと)が高天原よりこの地上に降臨なされるに当たり、お供をして降りてこられたと伝えられます。

その後、筑紫の弦田にお住まいになられ、この弦田とは筑豊地方とも八女地方ともいわれ、その地を開拓されその地方の物部氏の祖(先祖)とされました。旧社殿は古墳の上に建てられていました。この古墳の主が「くさかべの君富松」でないかともいわれますが定かではありません。

しかし、旧社殿が平成二十年八月に原因不明の不審火により全焼してしまい、現在の社殿が地元産子の皆様の篤い崇敬の誠心により平成二十三年七月に再建されています。



再建された現在の社殿

仰とも重なり、神仏混合の時代には妙見菩薩が祀られていたのかも知れません。更に星神 明星天子の「みよようじょう」が「あかほし」とも読めることから明治の神仏分離にて赤星命が御祭神に変わられたのかも知れません。このように今となっては詳しく知る者もおりませんが、郷土の氏神様、産土の神様として皆様方の信仰を集めてお鎮まりになるのが富松神社です。

第二回 高良山写真展

七月二日募集開始

昨年度に第一回を開催し、好評を博した高良山写真展が、御蔭様にて第二回を迎えることとなりました。

昨年は初めての試みでしたが、五十名の参加を得て一二五点の出展がありました。

募集要項は次の通りですので多数の御応募を心より御待ち申し上げます。

《第二回 高良山写真展募集概要》

- ① 参加資格
年齢、性別、国籍を問わずどなたでも応募頂けます
- ② 応募期間
七月一日(月)から九月十五日(日)の間(当日消印有効とします)
- ③ 展示期間
十月十九日(土)から十一月二十四日(日)
高良大社中門内特設展示場
- ④ 表彰日程
十一月二十三日(土)勤労感謝の日に斎行される新嘗祭(いなめさい)にて顕彰奉告の上、表彰します
- ⑤ 主催団体
高良山写真展実行委員会
- ⑥ 後援団体(順不同)
高良大社、高良大社崇敬会
福岡県、福岡県議会
久留米市、久留米市議会
西日本新聞社
久留米ゆめタウン
- ⑦ その他諸注意事項
● お一人につき三点まで応募出来ます
● 作品は未発表のものに限り、返却致しません
● 作品の版權は高良大社に帰属するものとしますので、社報や公式ホームページ等で使用させて頂きまます
● その他詳細は高良大社公式ホームページを御覧下さい



第一回 高良山写真展展覧会司賞 「弹奏」

高良山通信

境内 参道災害復旧工事実施

昨年七月の豪雨は、全国に大きな被害をもたらし、高良大社でも境内・参道の三箇所土砂崩れが起きました。高良山は、国の史跡に指定されているため、復旧工事は国庫補助事業として、二ヶ年度に亘って実施することが決定されました。

平成二十四年度は、法面崩落により流れ出た土砂の撤去・石積の補修・参道の開通、二十五年度は法面自体の修復の計画です。安全に配慮した工程に基づき順次施工し、平成二十四年度分の計画復旧工事が終了致しました。

①旧宮司邸入口部分の工事
平成二十四年十二月二十五日
終了



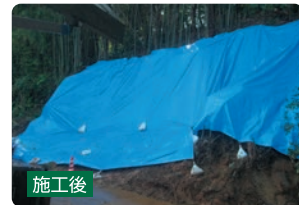
②天然記念物「孟宗金明竹」林の上部参道の工事
平成二十四年十二月二十五日
終了



③旧宮司邸入口の上部参道の工事
平成二十五年二月二十三日
終了



兼務社 山川招魂社でも崖崩れが発生し道路を塞ぎ、参道石橋の基礎が破損する被害がありました。夜昼分かたぬ応急作業にて、仮復旧しております。



崖崩れ



石橋

職員表彰・異動

〔勤続十年表彰〕

権補宜 松本 長人
雇員 平田 松夫
平成二十五年四月二十九日

〔奉職〕

岡部 吉高
出仕を命ずる
平成二十五年四月一日

〔退職〕

雇員 平田 松夫
願により職を免ずる
平成二十五年四月三十日

鎮守の杜

●この五月十日に出雲大社の六十年に一度の本殿遷座祭をお仕えさせて戴いた。御仮殿への遷座祭より五年ぶりの門前は様変わりをしており、学生当時の面影も薄くなっていたが、大國主大神様の元での修行が蘇り、有り難い極みであった。

●不幸な話で恐縮乍ら、祖母がボツクリと帰幽(死去)した。思えば帰幽した晩に夢に祖母が出てきて、「おばあちゃん死ぬんだぞ」と言ったので「何をふざけた事を言ってる」と夢の中で喧嘩したのが、ある意味最後の会話となった。

●葬式も終わった幾日後に祖母から小包が届いたのは驚いた。中身は白足袋であった。帰幽する二日前に衣料品店へ手配したと後になってから知る。葬式に行くことも出来ない愚かな孫への贈り物。それを手にした時、今まで我慢していたものが崩れて泣けてきた。

●櫻の開花も早い。ツツジの開花も早い。この春、お陰様で高良大社へ奉職して十年を迎えさせて戴きました。あつとという間というのが正直な感想です。山中の生活は夏は湿気とムカデや蚊、冬は冷蔵庫いらずの凍てつく隙間風にこの十年戦ってまいりました。(長)

「たまたれ」 通巻二十五号

平成二十五年六月一日発行

発行者／高良大社社務所

福岡県久留米市御井町一番地

電話〇九四二一四三二四八九三

FAX〇九四二一四三二四九三六